

感染症の登園基準

※裏面も参照※

病名	潜伏期間	感染しやすい期間	主な症状	登園基準
☆インフルエンザ	1～2日	症状がある期間(発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い)	発熱・咳・筋肉痛・鼻汁 全身倦怠・咽頭痛 ウイルスの型が多様なので異なれば何回も罹患する	発症後5日を経過し かつ解熱後3日を経過し元気が良い時
☆百日咳	6～15日	抗菌薬を使用しない場合咳の出現後3週間を経過するまで	風邪様症状・長引くしつこい特有な咳・嘔吐など 終生免疫	特有の咳が消失した時また、適正な抗菌性物質製剤による治療が終了し元気が良い時
☆はしか(麻疹)	10～12日	発疹出現の前7日間から後7日間くらい	発熱・咳・鼻汁・頬の内側粘膜に白い斑点・目やに・充血・全身に発疹など 終生免疫	発疹に伴う熱が下がった後、3日を経過し元気の良い時
☆おたふく風邪(流行性耳下腺炎)	14～24日	発症3日前から耳下腺腫脹後(耳の後ろから顎にかけての腫れ)	発熱・耳下腺・舌下腺・顎下腺の腫脹及び圧痛 終生免疫	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し かつ全身状態が良好になった時
☆三日はしか(風疹)	14～21日	発疹出現の前7日間から後7日間くらい	種々の発疹・軽熱 リンパ腺肥大 終生免疫	発疹が消失した時
☆水ぼうそう	11～20日	発疹出現1～2日前からかざぶた形成まで	斑点丘疹状→水疱→顆粒状 終生免疫	すべての発疹がかさぶたになった時
☆咽頭結膜炎(プール熱)	5～6日	発熱、充血等症状が出現した数日間	発熱・全身症状 咽頭炎と結膜炎の合併症 罹患後4～5年は免疫あり	主な症状が消退後 2日を経過し元気が良い時
☆アデノウイルス感染症	5～6日	発熱、充血等症状が出現した数日間	発熱・嘔吐・下痢 罹患後4～5年は免疫あり	主な症状が消退後 3日を経過し元気が良い時
☆流行性角結膜炎	1週間以上	発熱、目やに等症状が出現した数日間	軽熱・頭痛・全身倦怠・結膜の炎症・目やに・眼瞼浮腫 免疫なし	治癒するまで
☆急性出血性結膜炎	1～2日	発病後約4日	流涙・結膜充血・滲出液 眼瞼浮腫 免疫なし	治癒するまで
☆溶連菌感染症	2～4日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	発熱・咽頭炎・扁桃腺炎 頸部リンパ節炎・莓舌 全身に発疹 免疫なし	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
☆結核	6ヶ月～2年以内に多い		咳・痰・胸痛・発熱	他人への感染の恐れがないと医師が認めた時
☆乳児嘔吐下痢症 感染性胃腸炎 (ロタ・ノロウイルスなど)	1～3日		発熱・腹痛・下痢 ロタウイルスの場合、レモン色、白色の下痢便 免疫なし	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事が摂れていること
☆腸管出血性大腸菌感染症(O-157、O-111など)	1～14日		水様性下痢・血便・腹痛 発熱など	症状が治まり、抗菌薬による治療が終了し48時間あけて、連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認された時
☆マイコプラズマ肺炎	10～24日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	咳・発熱・全身倦怠感 呼吸困難(重篤時) 免疫なし	発熱や激しい咳がおさまっていること
☆ヘルパンギーナ	2～7日	発熱等症状が出てから数日間(便の中に含まれているので注意が必要)	高熱・咽頭痛・咽頭に水疱 免疫なし	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事が摂れていること

☆手足口病	2～7日	手足や口腔内に水泡(みずぶくれ)・ただれが発症した数日間	感冒様症状 手足口に赤斑→水泡 免疫なし	発熱や口腔内の影響がなく、普段の食事が摂れていること
☆RSウイルス	2～8日		呼吸器症状(ヒューヒューという呼吸音、咳、痰)	呼吸器症状が消失し、全体状態がよいこと
☆りんご病(伝染性紅斑)	17～18日	発疹出現前の1週間	顔面赤斑、特に頬部に発疹 免疫なし	全身状態がよいこと
突発性発疹	約10日		高熱・3日後に全身発疹 終生免疫	解熱し、機嫌がよく、体調がよいこと
ヘルペス性 歯肉口内炎	2～2週間		口内炎症	症状が改善し、食欲があり元気であれば登園可能
とびひ	2～10日	水疱(水ぶくれ)、びらん(ただれ)から膿が出ている間	主として豆粒大の水疱自覚症状	・水疱(みずぶくれ)・びらん(ただれ)面をガーゼ等で保護できること ・水疱(水ぶくれ)・びらん(ただれ)面が乾燥し、膿などが出していないこと
アタマジラミ	不明		頭部に虫卵・成虫を認める かゆみ	薬剤で駆除を開始していること

☆印は、登園許可書が必要です。